

ビブリオエッセー

産経新聞 令和2年(2020年)3月16日(月)

京都府精華町 吉本真緒 (20)

【夢をかなえるゾウ】

水野敬也(飛鳥新社)

2020.3.16

私は塾の講師をしている。

受け持ちの高校一年の生徒と、たまにおすすめの本を紹介し合うことがある。そんなとき、すすめてもらった本が『夢をかなえるゾウ』だ。

その生徒は私に「絶対読んで!!めっちゃいい本やから」と目をキラキラさせて語りかけてきた。本をすすめてもらったことは何度もあったが、こんなにも目をキラキラさせ楽しそうにすすめられたのは初めてで、心が動いた。

物語は「おい、起きろや」と枕元で呼びかけられた主人公「僕」の驚きから始まる。目の前に鼻の長いヘンなのがいる。「お前、だれ?」「だれやあれへんがな。ガネーシヤがな」。

「人生を変えたい」一心でインド旅行に行き、帰国後のこと。僕はインドで買った象の神様に「変わりたい」と泣

<自分をホメる>ガネーシャの知恵

いてすがっていた。そこでガネーシャはなぜか関西弁で、さまざまな成功するための課題を与えるのだ。

なかでも私は「その日頑張れた自分をホメる」という言葉がとても響いた。毎日寝る前に、自分がその日頑張れたことを思い出して「ようやったわ」とホメなさい。そして「頑張ったり成長することが『楽しい』ことなんや、て自分に教えたるんや」というのがガネーシャの思いだ。自分をホめることで自分を見つめ直し、自分を認めるキッカケになることが分かった。

ほかにも「靴をみがく」など日常のささやかな心がけがいくつもあって、本を読むことで自分の中になかった考えが増えるのは面白い。子供たちも読めて笑える本だが、おすすめて通り、しっかり大人の読み方ができる本だった。

※無断転載不可